

複写連HP URL
fukusyaren.or.jp/
 401k HP URL
fukusya401k.jp

複写連だより

日本複写産業協同組合連合会
 〒105-0011東京都芝公園1-7-8
 ITビル4階 電話03(5402)6167
 FAX03(5402)1088
 e-mail: info@fukusyaren.or.jp
 URL <http://www.fukusyaren.or.jp/>
 発行責任者 森下修至

楠本副会長 メッセージ

『リーダー達への Message
 —協同組合と複写連、その本来と将来—』

副会長 楠本雅一
 (最終稿です)

理事長の役割

所属員への活動について、業界全体の利益から理事長の役割について書きます。

資料として、筆者が近畿複写産業協同組合の理事長に推薦されそして就任、さらに1期2年の任期終了時の資料を添付しました。ある程度の理事長の仕事が見えると思います。業界善に立脚した戦略志向で作成した文書です。

(本書には添付していません)
 これから書くことは、近畿複写産業協同組合という規模だからできるのだという先入観は捨てて読んでください。近畿複写産業協同組合も150近い所属員が今は60余りの規模です。

しかし規模の縮小による危機感から、このような資料の文書を作ったわけでもありません。厳しい時代を乗り越えている仲間たちは、環境に適応しつつある企業だと思っています。少数になったと言え強い企業が集まっている組織だと、やせ我慢でなく心から思っています。そういう仲間には理事長の役割として文書を作成しました。目的は理事



副会長 楠本雅一氏

ならびに組合員に近畿複写産業協同組合の諸事業の御理解を得るためです。

このような周到な準備をして理事長になった者は業界では少ないでしょう。2年という限られた任期の中、理事たちを生かし最大の協力を得るための組合最適化運用の戦略的ツールです。組合規模の論理でなく、組織運営の責任者である理事長としての責務を果たすための最も根本的な仕事だから多くの文書を作成しました。文書によって組合の理念や目的や事業の理解を進めていきました。これから簡単に理事長就任準備からその2年の過程を紹介させていただきます。当然書ききれませんので、資料などを参考になさってください。

若き理事長たちが迷っているのであれば参考になるのではと思いついて書きます。

理事長就任の準備

2011年4月頃に次期理事長として理事から御推挙いただきました。近畿複写産業協同組合第8代目の理事長です。自分が並ぶことになった歴代理事長と理事の方々の系譜を見ると、この50年の歴史を

創ってくれた大先達がたくさんいます。父も含めてその多くが亡くなっています。系譜を眺めながら、その末席に自分の名が刻まれることに不思議さを感じました。

あわせて時代の変節点で、組合の本来を確認し、組合の将来を見据えた目標を明確にしたうえで組合運営をしなければならぬという覚悟を決めました。

協同組合が自分に求められることは何か。自分ができることは何か。思いは巡るのですが、まとまりがつかいません。そういうときの常として、自分の考えていることを文書としてアウトプットすることにしました。それを客観的に眺め、考え方の誤りや内容の過不足をもう一度自分にインプットしました。その確認を繰り返し行いました。これらの内面作業の表出の一部が今回の資料です。

やる以上、理事長としてやりたいこと、またやらなければならないことを理事たちに正確に伝えることが最重要です。

まずは協同組合の普遍的3価値を定義し説明しました。「場の価値」「力の価値」「利の価値」です。複写連と同じ3価値です。この3価値を具現化するために事業があります。組合事業の方向性の迷いや活力が低下した時に立ち戻る組合理事会の故郷と呼べるものです。

詳しくは後述しますが、二期目には組合運営基本三文書の整備も行いました。時間が

経過すると現実と整合しない内容が見受けられます。「定款」「規約」「規定」基本三文書を最新版に更新しました。

それらの下位にある事柄に関しては「内規」を定めました。このように活動の根本と法令遵守の文書を整備し無用の混乱を未然に防止する策も講じました。前面に向けてはガバナンスを効かす事業の推進であり、背面にはコンプライアンスも意識した運用の骨格づくりです。

理事長として組合諸活動をマネジメントするために、それらを総合した運営基本計画書を作りました。普遍的な理念と、時に応じてしなやかに変化する運営法を説明しました。過去の事業見直しも大胆に行いました。慣習による無駄な事業の削減に取り掛かりました。そのうえで削減した資金を「場の価値」「利の価値」を高める事業に振り替えました。

協同組合という場の価値を実感していただくため、一人でも多くの人を集める事業の予算です。これらの事業は今も組合主力事業として継続的に実施しています。

また、利の価値の還元として翌年から本格的に教育事業に取り組みました。優秀な若手理事に支えられ3年目を迎えた今年、はっきりとした成果が現れています。自社において教育を受けたものと、受けなかったものとの差が歴然としました。数年繰り返すと前に進むものと遅れて付いて来るものとの差が益々大きく

なることに驚き、社内の教育を根本から再検討しなければならなくなりました。社内においてもこのような事象が見られます。ましてや企業間ということになればもっと大きなものになるでしょう。今後PODを核とする市場の拡大が予測されます。そのようななか理事長として、一社でも多くの組合員、一人でも多くの従業員の方々が教育の機会・効用を受け、さらに拡大していくPOD市場で活躍して欲しいと願っています。

これらの事業に関しては近畿複写産業協同組合事務局発行の「複写ニュース」にて全国の業界に発信しています。参考にしてください。

運営基本計画書では具体的な施策を目的ごとに分類し、その意味を定義して人事に配慮のうえ組織を創っていきました。組織は人事によって決定する。協同組合だけでなく複写連も同じです。人事が運命を握っているという主張に異論をはさむ余地はないでしょう。

適材適所の人事も完成しました。ここまでしても安心して理事長職を全うするには準備は半分です。

協同組合の事務局

運営には所属員、賛助会員の参加協力と理事たちの献身がなければ事業を進めることは不可能です。しかし実は、事業を立ち上げ、運営し、継続するために最も根幹となる機関は「協同組合事務局」です。

正しい組織を創るため、組合員や賛助会員に役に立つため、強い事務局そして優しい事務局を作らなければ施策は画餅となり空中分解します。組合の根幹機関としての事務

局構想は当初から持っていました。

複写連も協同組合も、賢くて、優しく、そして強い事務局がなければなりません。組合は法によって定義された組織です。協同組合法、定款、規約、規程という順で活動が細部にわたって規定されています。法の定めを根拠として発行された文書が組合諸活動の原点です。もちろんこれらの法定文書は設立時より備わっています。

しかし何事も歴史を経ることにより世の中が変わり、活動が変化すれば文書も変化させなければなりません。放置すると、法定文書との整合性が損なわれ、その結果、活動の法的根拠が曖昧になり、遵法の精神が疎かになります。

理事会主体の運営を善とする誤解が生じ、脱法行為すら看過されることもあります。ただし現状を固定することは愚です。変化に伴い文書の変更は柔軟にすべきです。しかし忘れてならないのは、運営に都合のよいように変更するのではなく、あくまでも法令の遵守が基本です。

法に立脚する組合運営—それを正しい組織と呼びます、正しい組織の事務局は法ならびに組合運営に明るくなければなりません。このことは日々の仕事を負っている理事には難しいことです。組合法の熟知、組合会計の熟知、そしてそれらに立脚した組合運営の熟知が求められます。それもレベルの高い熟知が求められます。

その3つの知識(科目)を評価する資格制度があります。それが「中小企業組合士」です。理事長就任と共に事務局員に学習し資格を取るようお願いしました。主婦と組合

の仕事を一両立させて懸命に勉強してくれました。そして、本年見事に3科目に合格しました。

近畿複写産業協同組合に中小企業組合士が誕生しました。理事長の最高最強の相棒です。彼女は小野さんと言います。

事務局長の誕生

近畿複写産業協同組合は、過去には事務局長をおいていたのですが、いろいろな事情により暫くは空席にしていました。事務局女性2名体制は維持しながら事務局長は不在にしていました。理事長以外、細かに命令をする者もいないので自主的に工夫しながら仕事をするようになりました。結果として、期待役割に対する主体性や自律性が育ちました。リーダーシップも自然に芽生えました。

その仕事ぶりは理事や所属員や賛助会員から高い評価を得ました。組合士資格取得と共に関係各位の高い評価に応えるべく、本年3月に待望の事務局長を誕生させました。事務局長としての仕事は頗(すこぶ)る順調です。

またその成果は組合運営の隅々まで生かされています。所属員を守り、賛助会員や中央会と強い絆をつくり益々強い組織へと事務局は活躍しています。理事長の相棒としての事務局は重要です。

近畿複写産業協同組合の事務局長は女性です。本来的な母性による次代への働きかけや、女性らしい濃やかな運営は元より、笑顔の理事操縦術では理事長はじめ組合関係者は大いに助けられ、そして・・・働かされています。

組合員訪問「聲を聴く」

時は2011年5月末まで遡り

ます。

理事全員の基本計画書の理解と同意を得て、2012年に設立50周年を迎える近畿複写産業協同組合の理事長に就任しました。

最初に取り掛かったことは、企画書に従い副理事長2名を同行しての組合員全社訪問でした。訪問先の多くは自分にとっては先輩達です。目的は理事長としての新任挨拶と、企画書等による新しい組合事業の紹介と参加協力のお願いです。また、すべての所属員との接点もないので、その現状を知り、そして対話することでした。すべての訪問で歓迎されました。有り難く嬉しかったことが今も想い出として深く残っています。

その訪問記は「聲を聴く」という小誌にまとめて組合関係各位すべてに配布しました。この訪問の最大の成果は、理事長の役割に多くの気付きを与えて頂いたことです。

現役経営者世代が協同組合と疎遠になっていました。

組合の根幹を揺るがせる一番の問題です。所属員にとって組合の存在意義が少なくなっていることの証です。

その結果、訪問すると次世代の若い方々を御紹介いただくのですが、組合事業も知らなければ無関心でした。当然のことだと思います。父親世代が組合に近づかないのに、どうして息子や娘世代が近づくことができるのでしょうか。

私たちがいまこうして組合に役割を与えてもらっているのは、自分の親爺が組合の近くにいたからです。

組合と組合員、さらには次世代。その絆が今にも切れそうに感じました。理事長と理事の役割が見えてきた瞬間でもありました。

組合員と話をする、ほとんどの方々から組合への愛着を膚で感じます。組合活性化のために、その愛着を組合事業に参加する意志へと置き換えればいいのです。

対話は組合の厚生事業から教育事業についてさらに続けました。参加への障害などの話も出ました。このような人たちにこそ、もう一度組合という場に来ていただきたい。そのうえで業界の意味を考えてほしいと思いました。

また苦勞をしている組合員こそ、時代を乗り越える知を得る教育の機会がなければなりません。教育事業は理事長の自己満足であっては意味がありません。教育は手段であり、実施することが目的ではありません。教育で得た知を社内で展開し、従業員の成長、そして会社の成長という目的までを考慮した企画でなければなりません。

組合員の視点で実施しなければならぬことを痛感しました。この視点はいまま、賛助会員との協業による組合教育事業の原点です。

次世代をたくさん発見しました。発見とは失礼な表現ですが、私にとっては「宝物の発見」でした。こんなに多くの若い人たちが父親と一緒に仕事をしている。

この人たちのためにも組合は必要である。組合理事長としての重責を実感しました。しかし参加させなければ組合の価値を享受できない。どのようにして奥に隠れる若者を組合という場に参加させるのか。組合という場に引っ張り出す施策が必要です。次世代組織の構想が立ち上がってきました。

組合員の聲を聴くという作業を通じて早々に次の施策を

実施しました。

「理事ネットワークの構築」「教育事業の早期実施」「次世代組織構築に向けて準備」など主要3施策です。詳しくは前述の小誌にまとめました。それらの成果は見え隠れしながらも理事長4年目も継続しています。

理事長に求められる客観性

組合組織が幻想であるがゆえに、その成果もまた臆(おぼろ)げに見えます。しかし賦課金を預かって事業を進める以上、臆なる輪郭を明瞭にして組織に高い評価をいただかなければなりません。

理事長2年が経過し1期目終了時に、理事各位に調査票を送付し理事長としての客観的評価を依頼しました。添付資料の通りです。組合の中核にいて事業を指揮していると、自身に対する客観性が減じる可能性があります。理念に沿った理想的な事業も、客観的評価を繰り返さなければいつの間にか自己満足型事業に墮落する可能性があります。その愚を避けるために2年間の総括をしました。同じことを複写連でも行いました。

しかしながら同じ釜の飯を喰っている仲間の理事たちへの調査依頼です。事業推進に協力してくれる優しき存在です。彼ら自身、また理事長や事業や現状を客観視できないものです。客観的評価できる仕組みを構築しつつも、それを運用し評価するのをもまた自分たちです。自らを客観視することは難しいことです。最後は自身の良識が全てです。

「後ろ姿を覚えねば、姿の俗なるところをわきまえず」世阿弥の言葉です。

後ろ姿を見ていないと(自

ら客観的に観察できない)、その見えない後姿に卑しさが出ていることに気付かないという意味です。

そうならないように自戒しなければなりません。

事業評価は事業を企図した時点で組み込まなければなりません。事業を評価して次に改善することが理事長として最低限の役割です。しかし理事長の役割は事業だけではありません。そのすべてに、リーダーとしての志と言動さらには資質をも問われます。

理事長としての仕事に対する取り組み姿勢と、自らへの冷徹な客観性こそが理事長の生命線です。それを失えば身を引く時です。

本来と将来

さて、本稿のサブタイトルは「協同組合と複写連、その本来と将来」でした。

本来とは、在るべき姿であり普遍的な価値を意味します。

将来とは、本来に立脚しながらも、時代の変化と共に新しい価値を創発する未来の姿です。そのなかで二つの組織の意義を考えました。しかしながら、組織そのものは幻想だという仮説のなかで、所属員にリアリティを与えるのは理事長であるという結論でした。

しかし人が蠢く組織を考えることは難しいテーマです。

「草稿Ⅱ」はその入り口に立ち扉を叩く程度です。書きながら、まだまだ書き足りない事に気付き、そのもどかしさを感じています。だが問題を提起した意味はあると信じています。

以上の論述のなかで感じていただきましたかったことは二つあります。

一つは、組織が在る以上、

その価値を自らの意思と力をもって顕在化させなければならぬということです。

そしてもう一つは、理事長としての喜びです。それは価値を提供する側の苦勞もあるがやり甲斐もあるということを理解していただきたいということです。

しかし自分たちの足元を見ると、その覚束なさに立ちすくむでしょう。それをどのように解決していくか。理事長としての宿命を負わされた者が、将来の夢のために知恵を働かせる絶好機です。

その好機を生かすためには、組合はある程度の規模も必要です。組合員が減少していく過程で組合を離れていった方々も多いと聞いています。小さな世界で同居していると、いつの間にか誤解が憎しみを生むこともあります。近畿複写産業協同組合は広域協同組合です。大阪、兵庫、京都が中心となり、滋賀、奈良、和歌山が加わり6府県で構成されています。

分散している協同組合を集合させことは業界の活性化に有効です。大きな世界で組織活動をする利点は濃すぎる血を薄めるという効果があります。集合には不便もありますが、それこそネット社会なので工夫すれば何とかなる話です。不可能だと思う心を捨てて、やる気になれば大概の事はできます。すべてが一気にできなければできるだけからやるというのも将来への第一歩です。もちろん複写連も努力する理事長を見捨てることはありません。業界の一員である近畿複写産業協同組合の理事長としても関心事です。

大胆に将来を構想してください。誤りがあればまた正せばすむことです。何もしない

でただひたすらに我慢していることからイノベーションは生まれません。

複写連も「本来と将来」というテーマと対峙しています。だから組合に責任を持つ理事長を中心とする理事会構成にしたのです。声は大きいけれど何もしない人は雑音ではありません。しかし声は小さいけれど未来志向の声は私たちの琴線に触れるものです。そういう方と共に業界のイノベーションを推進していくことが複写連の将来を創発します。

理事長との往復書簡の最後の質問は、

「複写連は誰のために何をやる組織なのか、また継続性のある組織のカタチとは」です。本来を再確認し、将来を構想する質問です。簡単なようで難しい質問です。

真剣に自分たちの組合のために考えてください。

結び(草稿Ⅰ)

複写連と協同組合、そして理事長について書いてきました。業界革新の思想基盤を説明してきました。このことに関して、少しでも御理解をいただければ幸甚に存じます。

しかし書けば書くほど、書ききれないことに気付かされました。それは今後の議論と次稿に譲ることにします。したがって未完であるという意味を込めて「草稿」としました。本稿を契機として自分たちの組織のことを、愛情深く考えていただければその目的も半ば達成されたものと思います。これから大切な事は具体的な方法論とその実行です。本稿も参考にしていただき、

複写連理事会において本質的議論に入らなければなりません。

ところが過去の理事会では遠慮もあってか、若い理事の皆様方は自身の奥底の全てを表出するには至っていないように拝見しました。きっと欲求不満の理事会だったのでお詫び申し上げます。そこで全体理事会に先立って、各理事長のありのままの御存念をお聴きしたいと思いました。その前提として、現複写連幹部が考えている事をまとめた次第です。

以前に提出頂いた書面はいまも大事にお預かりしています。御苦勞の跡が行間に溢れている事に先輩として申し訳なく思います。このような状況を如何にして脱却しましょうか。

まずは、本稿を御一読いただきたい。そのうえで、御存念をより深くお聴きする方法として、各理事長から頂戴した文書に私が質問事稿を書き、それに御返事をいただくという往復書簡の形式で対話を進めてまいりたいと存じます。一回の往復で終わるかもしれませんが。ある人とは数度の往復もあり得ます。楽しみにしています。

筆者としては、本書ならびに書簡返信には大風な筆法は極力避けたつもりです。

しかし元より筆の未熟さゆえ、御不快の念を招来する場合もあるのではと推敲を繰り返しました。それでももしもあった場合には、お許しいただきたくお願いいたします。

なお、お忙しいことは重々承知していますが、協同組合理事長として複写連理事として熟慮のうえ率直なる御復信をお願いいたします。

本稿ならびに往復書簡を元にして10月16日の博多会議に臨み、具体的な方法論の議論と実行について御意見を

賜りたいと存じます。あるいはその入り口で終わるかもしれませんが、このような機会を継続して参りたいと思っています。その場においては、気軽に率直な御意見の披露をお願いいたします。そのことによって私たちにも大いなる気付きのあることは間違いありません。

共に、勇気を持って業界革新を進めてまいりましょう。

結び(草稿Ⅱ)

<リーダーシップについて>

この草稿Ⅱの結語においては、書き切れなかったリーダーシップについて補足します。

しかしそれを自分の言葉で語るには浅学非才です。そこで、日本の知識経営の嚆矢であり、ナレッジマネジメントやリーダーシップ論の世界的権威である野中郁次郎先生の著作物より引用して参考に資したいと思えます。

私的な事ですが、最近の私のお気に入りの本です。その本は「史上最大の決断」(2014年5月ダイヤモンド社発刊)です。第二次世界大戦で連合国を勝利に導いた「ノルマンディー上陸作戦」を分析し、成功に導いた賢慮のリーダーシップがテーマです。先生の著作物には「失敗の本質」や「戦略の本質」があります。前者は太平洋戦争の日本軍の敗戦の分析。後者は戦略によって大逆転した戦いの分析です。戦争という極限状況のなかでこそ戦略は重要であり、それを計画・遂行するリーダーシップによって成功に導かれます。

リーダーによって衆知が創発され、そこにマネジメントの本質があるとの考えです。そのリーダーのキーワードはアリストテレスが提起した

「フロネシス」という概念です。以下、「史上最大の決断」より引用します。(P344・345)

アリストテレスは『ニコマコス倫理学』において、知識をエピステーメ、テクネ、フロネシスに分けて説明している。エピステーメとは科学的、認識論的な客観知であり「形式知」と言い換えることができよう。テクネとは実用的なスキルやノウハウであり、「暗黙知」と言っている。われわれは暗黙知と形式知の相互変換螺旋運動によって知識創造、すなわちイノベーションが生まれると考える。それを促進するのが第3の知識であるフロネシスである。

フロネシス、すなわち実践知は実践理性という訳語もあるように、実践と知性を総合するバランス感覚を兼ね備えた賢人の智慧である。利益の極大化や敵の殲滅という単純なものではなく、多くの人が共感できる善い目的を掲げ、個々の文脈や関係性の只中で、最適かつ最善の決断を下すことができ、目的に向かって自らも邁進する人物「フロニモス」が備えた能力のことだ。予測が困難で、不確実なカオス状況でこそ真価を発揮し、新たな知や革新を持続的に生み出す未来創造型のリーダーシップに不可欠の能力でもある。

われわれは数多くの優れた政治家、軍人、企業のリーダーを研究した結果、実践知リーダーは次の6つの能力を備えていると考える。

- (1) 善い目的をつくる能力
- (2) ありのままの現実を直観する能力
- (3) 場をタイムリーにつくる能力
- (4) 直観の本質を物語る能力

(5) 物語りを実現する能力
(政治力)

(6) 実践知を組織する能力
善い目的がなければ多くの
人を巻き込めない。現実を正
確に把握できなければ、間違っ
た判断を下してしまう。場を
つくる能力がなければ、衆知
を創発できない。うまく物語
る能力がなければ人を説得で
きない。政治力なくしては優
れた構想も画餅に終わってし
ます。実践知を組織に広めら
れなければ、メンバーが育た
ず、組織が一代限りになって
しまう。だからこそ、この6
つが必要不可欠なのだ。

「史上最大の決断」を読ん
で、すぐに素晴らしいリーダー
になれるとは思いません。

しかしリーダーの型を知っ
ていることは今後の諸活動に
役に立つはずで。それは決
して業界活動のみならず、経
営者としても必要な能力です。

是非一度は手に取ってお読
みになって下さい。またその
うで関連する著作物にも挑
戦をされてはいかがでしょう
か。最後に内緒の話をします。
当書をズルして読む順番です。
まずは序章をしっかりと読む。

基本コンセプトの理解がで
きます。次に「決断の本質」
第7章・第8章を熟読します。
繰り返し理解が深まるまで読
むといいでしょう。それから
第1章から第6章まで読むと
リーダーの理解が進みます。
是非、リーダーの本質を理解
のうで組合運営に共に励まし
ましょう。

本書の一部でもその役に立
てば望外の喜びです。貴協同
組合が益々進化されることを
祈念いたします。

※4回に渡った連載はこれで
完結です。

複写連総務 委員会開催

2015年4月10日(金)日本複
写産業協同組合連合会では事
務局において総務委員会を開
催し、5月に開催される理事
会に向けて資料作成に関する
討議を行いました。

5月理事会では平成26事業
年度の決算関係書類の内容の
確認、新年度事業計画の立案
とそれに伴う予算の策定につ
いて討議を行ったところです。

詳細については、次回理事
会資料として皆様に討議して
戴くこととなります。

また、複写連事務局開設以
来積み重なった書類も棚卸を
行い新旧書類の保存や入替に
ついては精査し、不要書類に
ついては処分することとしま
した。

セーフティー ネット保証5号

セーフティネット保証制
度5号:業況の悪化してい
る業種全国的に業況の悪
化している業種に属する
中小企業者を支援するた
めの措置

◆対象中小企業者

以下のいずれかの要件を満
たすことについて、市区町村長
の認定を受けた中小企業者が
対象。

(イ) 指定業種に属する事業
を行っており、最近3か月間
の売上高等が前年同期比5%
以上減少の中小企業者。

(ロ) 指定業種に属する事業
を行っており、製品等原価
のうち20%を占める原油等の
仕入価格が20%以上、上昇し

ているにもかかわらず、製品
等価格に転嫁できていない中
小企業者。

以上について経済産業省か
ら3か月に一度の景況調査が
日本複写産業協同組合連合会
に対して行われています。複
写連役員に協力をお願いし調
査への回答を行っています。
今回も2月時点での調査を行
いましたが、経済産業省の審
査の結果当業界「複写業」は
対象外となりました。

この調査はサンプル数が多い
程実態に近い数字がでてき
ますが、調査にご協力いただ
ける会社が少ないため、偏向
した結果が出ている可能性が
在れます。

皆様のご協力が得られれば
実態に近いものが把握され同
制度の対象となることが予測
されます。

各社の月次売上調査を追跡
していく調査内容ですが、調
査票記入の際、各社の個別名
称は和からい仕組みの調査票
を作成していますので皆様
のご協力を戴ければと思います。
再度ご案内いたしますので
宜しくお願い申し上げます。

メーカー最新情報

賛助会員各社の最新情報
をお知らせします

キャノンマーケティング ジャパン株式会社セミナー のお知らせ

マンスリーセミナー in 東北

企業のお客さま向けセミナー
開催日時

2015年5月14日(木) 13:30～
15:30(受付開始13:00～)

定員、50名、受講料:無料、
主催:キャノンマーケティン

グジャパン株式会社

※お申し込み締切日

お申込み締切日 各開催日の
前日17時まで

(先着順にて定員に達し次第、
キャンセル待ちとさせていただきます)

※内容は、予告なく変更す
る場合がございますので、あ
らかじめご了承ください。

セミナー概要

2015年は法制度改正により、
人に関わる課題や業務はさら
に増加傾向!この春、Monthl
y Seminarでは皆様の課題解
決・業務改善のヒントとなる
情報をお届けいたします。

5月14日(木)メンタルヘル
ス対策セミナー シニア社員
のモチベーション低下問題

■13:30～15:30

～シニア社員の活用で企業
は驚くほど成長する～

2013年4月の改正高年齢者
雇用安定法施行以降、職場で
定年延長/再雇用社員のモチ
ベーションの低下や様々な言
動によるトラブルが多発して
います。あと数年だからと無
気力になる、一人分の仕事が
こなせず足を引っ張る、職場
で茶飲み話、過去の職位を振
りかざして大暴走・・・等々、
企業にとって切実な問題です。
そこで、今回のセミナーでは、
『劣化するシニア社員』の著
者であり、数々の現場を知る
シニア産業カウンセラーの見
波氏がその実態と原因を分析
し、シニア社員問題の対処策
を解説致します。シニア社員
を上手く活用できれば企業の
成長と職場の活力アップにつ
な갑니다。是非、この機会
にご参加ください。

※講師:エディフィストラ
ーニング株式会社 メンタルハ

ルス主席研究員 見波 利幸氏、受付・会場:仙台支店
キャノンマーケティングジャパン株式会社仙台支店 仙台
トラストタワー 15F、宮城県
仙台市青葉区一番町1-9-1
※サテライト会場のご案内

仙台支店のセミナーの様子を以下の4拠点からもご覧いただけます。サテライト会場に参加する場合も、申し込みをお願いします。

◆青森営業所 〒030-0131 青森県青森市問屋町1-3-8 キャノンMJ青森ビル 017(728)7755

◆盛岡営業所 〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通2-9-1 マリオス 019(603)0061

◆山形営業所 〒990-8580 山形県山形市城南町1-1-1 霞城セントラル 023(646)1171

◆福島営業所 〒963-8002 福島県郡山市駅前2-12-2 日本生命郡山駅前ビル 024(923)5618

本セミナーについてのお問い合わせ:キャノンマーケティングジャパン株式会社東北ビジネスソリューション本部 東北エリアマーケティング推進課マンスリーセミナー運営事務局

韓国に計測機器販売会社を設立

～ディスプレイ業界を中心に顧客密着のマーケティングを展開～

2015年3月19日

コニカミノルタ株式会社(本社:東京都千代田区、社長:山名 昌衛、以下 コニカミノルタ)は、韓国に独自の計測機器販売会社を設立しましたので、下記の通りお知らせします。

販売会社設立の背景と狙い

コニカミノルタは、光源の明るさや特性、物体の色を測定して数値化する計測機器の

トップメーカーとして、ディスプレイ生産ラインでのホワイトバランス測定において業界標準機となっている「ディスプレイカラーアナライザー」や各種光源の明るさを測る輝度計、また、家電製品のプラスチック外装、自動車の内外装、薬品、食品といった幅広い製品分野の色品質管理に利用されている測色計などを全世界で販売しています。

コニカミノルタでは、これまで韓国における計測機器の販売を、現地代理店を活用して展開してまいりましたが、ディスプレイや家電の世界的メーカーを擁する同国において、よりお客様に密着した販売戦略の構築と実行が重要であるとの判断から、新会社Konica Minolta Sensing Korea Co., Ltd. (以下SKR) を設立しました。

SKRは2015年4月1日より本格的稼働の予定であり、計測機器の韓国内のお客様への販売とアフターサービスを直接実施していきます。今回の設立で、グローバルに事業展開するお客様に対して世界共通のサポート提案を行うなど顧客満足度を高めるとともに、マーケティング力向上、販売チャンネルの新規開拓促進など事業展開力の強化も図ってまいります。

新会社会社概要、会社名称:Konica Minolta Sensing Korea Co., Ltd.、社長:尹 正重(ユン ジョンジュン)、所在地:1005, KINTEX Exhibition Center II Office Building, 407, Hallyu world-ro, Ilsan seo-gu, Gyeonggi-do, Korea (2015年4月1日以降)、設立日:2014年12月1日、資本金:5億ウォン、出資:コニカミノルタ株式会社 出資比率:100%、事業内容:

産業用の測定器、計量機器等の機械器具及び関連する消耗品、部品等の輸入販売、アフターサービス、主な取扱製品:カラーアナライザー CA-310:生産ラインの現場での有機ELやLEDテレビ、スマートフォンの色の調整・検査・品質管理が可能。さらにホワイトバランス・ガンマ・コントラスト・フリッカ調整も高精度かつ高速測定を実現します。分光放射輝度計 CS-2000A:4K8K高画質テレビやデジタルサインエージ、シネマ用プロジェクターなどの各種ディスプレイの輝度・色度測定が可能。さらに分光放射輝度計を使用することで百万対1のメガコントラスト分光測定も実現します。2次元色彩輝度計 CA-2500:スマートフォン、タブレットPCなど各種ディスプレイやLEDバックライトの輝度ムラ・色度ムラを高解像度で2次元測定が可能。さらにムラ測定ソフトCA-Muraを使用することで数値化を実現します。

分光測色計 CM-700d:電化製品や情報機器の外装、周辺パーツ類の色管理が可能です。さらにディスプレイのARコート(反射防止膜)やTACフィルム、反射型液晶の反射率測定も行えます。特定波長を管理することでARコートのバラつき低減を実現します。分光測色計 CM-5:食品、化学、医薬品、化粧品など様々な業界の製品の色管理をサポートする、表示や操作ボタンなどすべての機能が一体化されたオールインワンの分光測色計です。お客様の声を反映し、「誰でも、簡単に、間違いなく測定できる」操作性を実現します。

所属員の動向

◆会員所属員の住所変更

アイエムエヌ協同組合(理事長森下修至氏)から組合員の住所変更の届けがありましたのでご通知申し上げます。

※会社名

三伸工業写真株式会社
代表取締役高橋健太郎氏
新住所〒112-0002東京都文京区大塚4丁目10番8号(協振ビル)

新電話番号03-6902-0793

新FAX 03-6902-0794

◆賛助会員退会のお知らせ

※キャノンシステムアンドサポート株式会社及び※キャノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社の2社が連合賛助会員を脱退いたしました。

今後はキャノンマーケティングジャパン株式会社が総合窓口となります。

※異動は複写連事務局まで

複写連行事予定

※平成27年4月10日(金)日本複写産業協同組合連合会総務委員会、於複写連事務局

※平成27年5月13日(水)

日本複写産業協同組合連合会第30期5回理事会、江東区日本HP社会議室

※平成27年5月22日(金)

福岡複写産業協同組合総会:於八仙閣本店17:10~18:30

※平成27年5月29日(金)

北海道複写産業協同組合総会:於KKR-H札幌16:00~

※平成27年6月3日(水)

近畿複写産業協同組合総会:於ラグナヴェールプレミア15:00-17:00

※平成27年6月9日(火)

IMN協同組合総会明治記念館

※平成27年6月25日(木)
日本複写産業協同組合連合会総会、於世界貿易センター